次代を開く
女性起業家たち
Case Study 3

第6回 DBJ女性新ビジネスプランコンペティション

「女性起業大賞」受賞

川島 史子氏
（株）クラウドクリニック（東京都港区）

医療職女性の活躍で在宅医療の課題を解決する

（株）クラウドクリニックは、父親の病死を機に在宅医療の重要性に気づいた川島史子氏が2015年に起業・設立した会社だ。そのサービスは、電子カルテ入力、医事会計など在宅医療の煩雑な事務作業をクラウド技術を活用した遠隔オペレーションセンターで受託し、現場の医師をサポートするというもの。サポートするスタッフは結婚・出産・介護等で離職した女性の医療・介護等有資格者で、医師の負担軽減という社会的課題と女性の働き方改革を同時に解決するビジネスとして注目されている。

株式会社 クラウドクリニック
代表取締役
川島 史子氏（写真中央）

「男性よりも女性の方が、社会に対する問題意識や常識を疑ってチャレンジする力が強いと思います。起業には覚悟が必要ですが、女性の同志の皆さんと一緒に、より良い世の中にするためにチャレンジし続けたいと思っています」

キャリアのゴールとしての起業

クラウドクリニックの設立は、川島氏が培ってきたキャリアのゴールとも言える。大学では社会福祉を学んだ後、病院相談員を経て、医療系の研究機関や企業に勤務。名古屋大学医学部付属病院で共同研究員として医療コンシェルジュサービス開発に携わる中で、医療コンシェルジュ教育を行う会社の立ち上げを考えるようになった。だが、その矢先に父親を癌で亡くしたことがきっかけで、在宅医療の世界を知ると同時にその重要性に気づく。その時、川島氏は自身が過去に経験してきた医療コンシェルジュや医師事務作業補助業務のスキルが在宅医療に活かせるのではないかと考え、「在宅療養支援診療所の医師たちに同行して現場のニーズを把握し、必要な知識を吸収しながら、約1年をかけて、在宅医療を支えるクラウド型医師支援コンシェルジュサービスというビジネスモデルを作り上げていった」と言う。

女性の働き方改革にも繋がる

クラウドクリニックが提供するサービスは、3つの分野に7種類を数える。まず医療機関支援サービスとして、①サマリー作成代行、②カルテ記載代行、③書類記載代行、④診療報酬算定・チェック、そして患者向けコールセンターサービスとして、⑤受電・架電対応、⑥スケジュール立案、さらに多職種連携サービスとして、⑦連携先機関（ケアマネジャー・訪問介護員・家族等）との情報共有サービスだ。「これらはすべて現場の先生方のニーズから生まれたものです。実際の在宅医療の現場をたくさん見せてもらい、1つ1つ形にしてきました」（川島氏）

そして、これらのサービスを支えるのが、資格やスキルを持ちながらも、結婚や出産、介護などさまざまな理由により医療の現場から離れることを余儀なくされた女性たちだ。現在、潜在看護師だけでも約71万人いると言われ、その再戦力化が社会的課題となっているが、川島氏はクラウドクリニックの事業が女性の働き方改革にも繋がるとして、次のように語る。

「常勤希望者は減少しているものの、ワークライフバランスを重視しながら少しの時間なら働きたいというニーズは多い。当社でも看護師を始め、医療事務、介護福祉士、薬剤師の資格を持ち、子育てや介護をしながらも短時間なら働きたいというスタッフが活躍しています。会社設立時から裁量労働制（注1）に基づく短時間正社員制度（注2）を導入しているのも、そのためです」

日本の在宅医療インフラへ

DBJ女性コンペでの大賞受賞後は、DBJに組織作りのサポートを依頼した。「今後の事業拡大に向けてティール組織（注3）を実現したいと思っていたので、その具体的方法を相談できるメンターを紹介して頂きました。課題図書に基づいてスタッフの意識改革を実践し、その結果をメンターに報告する。この1年間、それを繰り返して、実際にスタッフの自主性や責任感が向上してきたと感じています」

起業から3年が過ぎ、社員30名、オペレーションセンター2か所（東京、福岡）、契約するクリニックは20軒を数えるまでになった。だが、在宅医療の将来を考えると、この規模では増加するニーズに応えきれないことは明らかだ。そのため川島氏は今、事業規模の拡大に向けて準備を進めている。

「全国に1万5000の在宅療養支援診療所があるとされていますが、患者数が増え続ける中、在宅医療サービスの供給は追いついていません。今後、この状況はさらに悪化すると予想され、そこをどうフォローアップできるかが課題です」

さらに川島氏には、事業の拡大を通じて叶えたい目標があるという。それは、個人の診療情報を一元的に管理・保存できるパーソナル・ヘルス・レコード（PHR）を実現することだ。「本来、カルテ情報は患者さんのものであり、医師しか知らない診療情報があってはいけないのです。患者さんが自分の医療情報を把握し、それを関係者全員が共有することで患者さんを支え合うような世の中になって欲しい。そのためにPHRの実現が必要なのです」

「今では、この事業が私の人生の使命だと思うまでになりました」と力強く語る川島氏。その視線の先に見据えるのは、日本の在宅医療インフラとしてのクラウドクリニックだ。

（注1）裁量労働制：実際の仕事時間量に関係なく、労使間で定めた時間だけ働いたと見なして労働賃金を支払う仕組み。
（注2）短時間正社員制度：育児・介護等と仕事を両立したい、決まった日時だけ働きたいなど、さまざまなニーズを持つ人材に、勤務時間・日数をフルタイム正社員よりも短くしながら活躍してもらうための仕組み。
（注3）ティール組織：個々人が主体的な意思を持ち、セルフマネジメントをベースに自由に協働する組織。次世代型組織モデルとして世界的に注目されている。